

相愛大学学生生活実態調査報告

〔その5〕

——入学目的別，タイプ別にみた学生の
心理的側面に関連して——

A Study on the Life of Students of Sōai University (Part 5)

—— In Relation to the Psychological Aspects of the Students
Classified on Their Entrance Motives & Types of Interests ——

長野孝男

緒 言

相愛大学における学生生活の過ごし方の特徴を明らかにし、一般教育から専門教育へ、厚生補導から健康指導へ、また、クラブ活動の一層の充実と発展を図ろうとするために始めた本研究は今回で5回を数えるにいたった。第1回はアンケート調査による度数分布を基にした予備的調査であつが^①、本学音楽学部学生の生活意識全般についての傾向を把握することができた。その結果をもとに第2回調査を実施し、音楽専攻生の学習時間、余暇の過ごし方の実態をとらえることができた。彼らは生活の中にも専門性の追求を中心とした生活生計を持ち、学生生活を送る傾向が認められた^②。第3回調査では、本学が学則の変革で男女共学となり男子学生を含めた新たな学習集団に注目し、前回同様の調査を実施した。また本学と他大学の技能系学部・学科を選択し比較を試みた。すなわち本学学生は他大学学生に比べ余暇活動度が低く、サークル、クラブ活動も低調であることが把握出来た^③。第4回調査では、音楽学部だけでなく、新設された人文学部(英米文化学科、日本文化学科)学生を含めた新しい形での調査を実施した。2学部学生の生活の実態、学生自身の健康状態についても一定の見知が得られた。そして学生文化を規定する要因の一端についても理解し検討することができた^④。

以上の先行研究の上に立ち今回の研究は、本学学生たちの大学受験時から現在の学生生活にいたるまでの幅広い時間に注目し、設問を加えた。

高校卒業後、就職せずに大学あるいは短期大学に進学するものが増加する現在、彼らの

進路決定は一段と難しい状態になっているのが現状であろう。一般に、どの大学のどの学部、学科に入学するかでその人の将来の仕事の領域、職務内容までが決定される傾向にある。その進路決定が何らかの理由で、学生自身にとり十分納得のゆくものでなかった場合やなんとなく決めてしまったという場合も多い。そうした学生には大学入学後にその後遺症がさまざまな形、いろいろなタイプの問題として発生し、彼らを悩ませることが少なくない。そして、転学部、再受験、休学、留年、退学といったケースが多く、勉強に身がはいらない、単位は全部とれるが就職する気になれないといったさまざまな障害に陥いる可能性が指摘されている。もちろん、憧れの大学に入学し、満足感に満ち、有意義な大学生生活を送っている学生も多数いる。

そこで、学生自身の進路決定が大学入学後の彼等の学生生活にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにしようと本調査を試みた。また、入学以前に描いていた本学のイメージと、現在持っているイメージについて、比較、検討しようとした。そして、相愛大学音楽学部学生と人文学部学生の学生生活に対する心理的側面の（入学目的別、学生のタイプ別にみた）差異についても検討しようとした。

I 目 的

本研究の目的は、相愛大学学生の入学目的別、タイプ別にみた学生の心理的側面を明らかにすることである。すなわち、学生生活実態調査結果を分析、検討し、彼等の学生生活の実態と意識傾向を、客観的にとらえようとした。また、そのことにより、今後の学生指導、厚生補導のための基礎資料を得ようとした。

II 研究 方 法

1. 調査期間：1987年6月下旬から7月中旬まで。

2. 調査対象：相愛大学、音楽学部学生（395名）、人文学部学生（256名）なお音楽学部395名には男子学生が51名含まれている。学年別にみると、Table 1-1に示すように、

Table 1-1 相愛大学 調査対象者

N=660

| 学部 \ 回生 | 1 | 2 | 3 | 4 | 計 |
|---------|---------------|---------------|--------------|--------------|------------------|
| 音楽学部 | 187 | 87 | 76 | 45 | 395 (男子51名含む) |
| 人文学部 | 119 | 95 | 18 | 24 | 256 |
| 計 | 306 (46.9) | 182 (28.1) | 94 (14.4) | 69 (10.6) | 660 (無記入) |

1 回生 306 名, 2 回生 182 名, 3 回生 94 名, 4 回生 69 名, 無記入 9 名, 計 660 名である。

3. 調査内容: 学生生活全般に関する 8 つの項目よりなる調査用紙を作成した。内容は以下の通りである。

「本学を受験した動機」「入学目的」「本学学生であることの誇りについて」「学生生活の充実度」「在籍している学部, 学科の満足度」「大学生としてのタイプ別分類」「入学前に描いていた大学のイメージと実態とについて」から構成されている。

4. 結果の整理: 集計にあたっては, 大阪大学大型計算センターの, SPSS (Statistical Package for the Social Sciences) プログラムを起動し行った。集計の一部については, パーソナルコンピュータを使用した。

III 結果と考察

1. 本学受験の動機

大学の大量化とともに大学への受験も気軽にするものが多くなった現在, 彼等はどのような理由で本学を受験し, 学部, 学科を選択したのかを把握するために, fig. 1 に示す 12

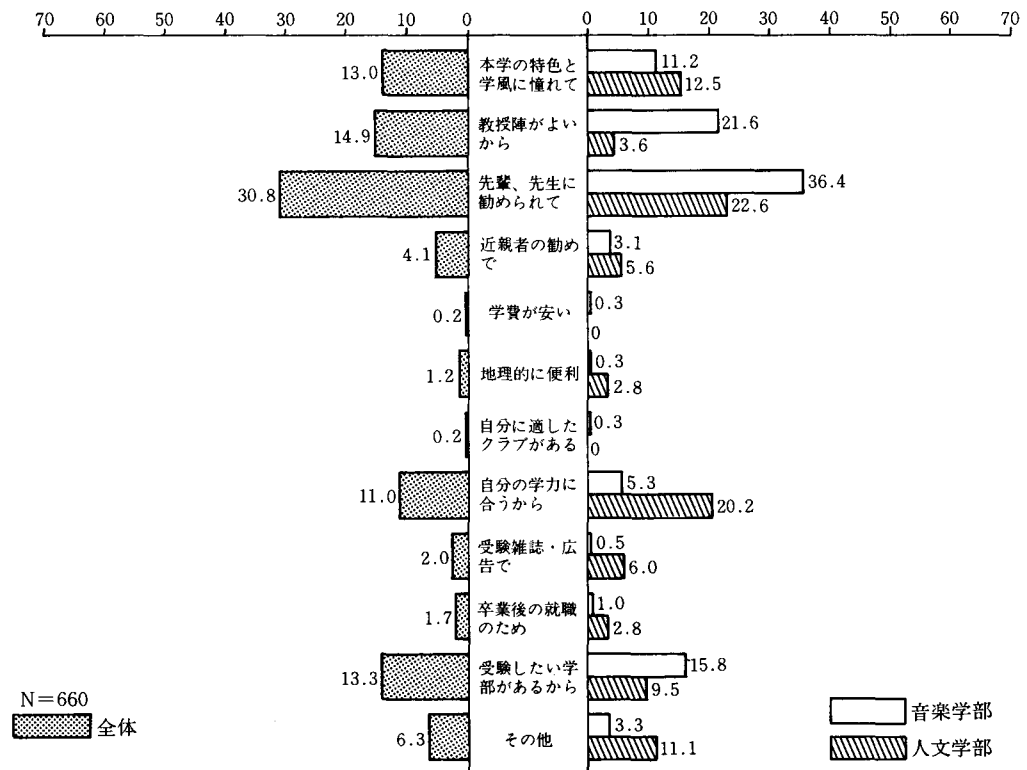


fig. 1 本学を受験した動機

項目より選択させ重複回答を求めることにした。

その結果、最も強い動機としては、「先輩先生に勧められて」受験した学生が30.8%、「教授陣が良いから」が14.9%、「受験したい学部があったから」が13.3%、「本学の特色、学風に憧れて」が13.0%であった。

学部別集計では、「先生、先輩の勧めで」進学した学生は、音楽学部(36.4%)、人文学部(22.6%)ともに高い数値を示している。本学受験にたいして、自分の意志だけではなく、外的動機づけが大きく影響していることが伺いがえる。第2位に、音楽学部学生は「教授陣がよいから本学を選択した」(21.6%)とっており、人文学部では「自分の学力にあった大学」(20.2%)という理由で受験したと回答している。第3位では、音楽学部学生は、受験した理由に、「本学に音楽学部があったから」(15.8%)受験したと答え、人文学部では、「相愛大学の特色、学風に憧れて」(15.5%)受験したとっている。その回答からいえることは、音楽学部学生は、他大学の調査でも高い数値が示されている大学の特色、学風に憧れて受験したという学生が少なく、寧ろ、音楽の勉強が出来るから本学を選んだと推察される。

2. 入学の目的

大学への進学率が高い我が国において、彼らは何を目的に大学へ進学するのかが興味を持ってるところである。そのため、多くの大学や研究機関で、学生を対象としたさまざまな調査が実施されている。

fig. 2 で示したように、11項目の中より重複回答させた結果は次に示すとおりである。「専門的知識を得るため」に入学したものが46.8%と最も多く、つづいて「学問研究追求」のためが(15.9%)「資格取得のため」(7.6%)、「豊かな教養と人格の陶冶のため」(7.5%)の順となった。

学部別にみると、音楽学部では、「専門的知識を得るため」に入学したものが61.0%と高かった。

音楽学部学生は専門教育を受けている意識が強く^①、また音楽専攻生は強い専門意識を持ち毎日の学生生活を送っていることが実証されている^②。一方人文学部学生の専門志向は24.4%となり、音楽学部学生と比較すると低い割合であった。これについての他大学における女子学生の統計資料を見るかぎりでは大差は認められない。よって人文学部学生の専門志向は平均的といえる。また人文学部学生の入学目的に「教養、人格の陶冶のため」(14.6%)が目される。音楽学部学生の「学問研究のため」が21.4%にも及んだ。しかしこのことについては、過去の研究結果から次のようにいえよう。すなわち、学問への探究心が強く、熱心な研究態度をもち、真理の探究に励み、自分の専攻以外の多くの講義にも積極的参加するという学生ではなく、そこには自分達の専攻楽器のレッスンに励む意味が多

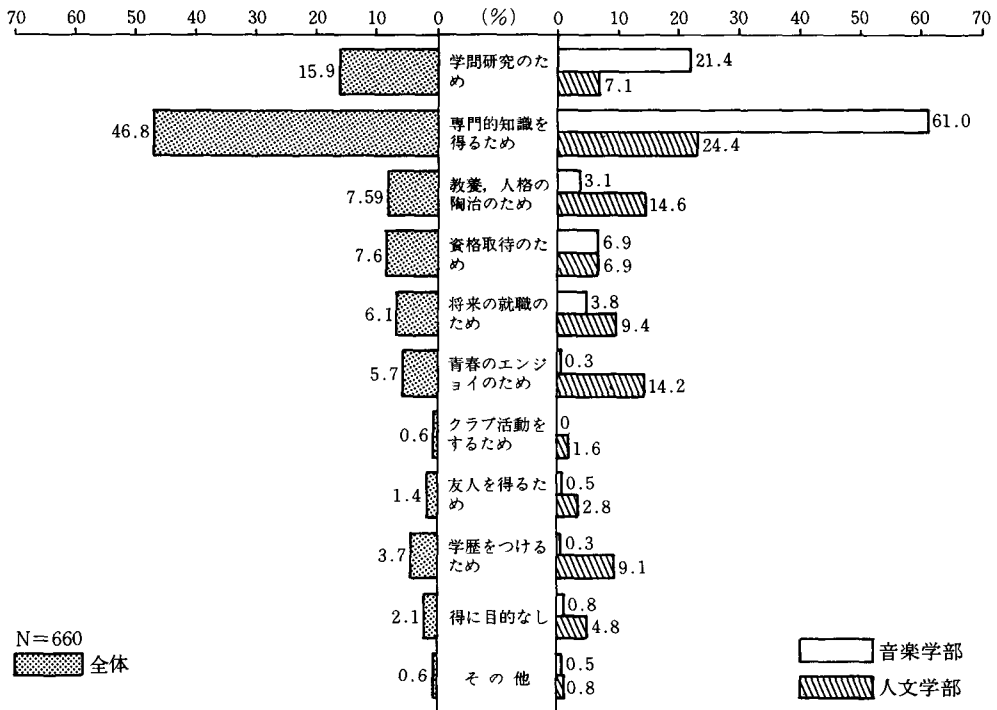


fig. 2 大学入学の目的

く含まれているものと推察される。

いずれにしても、これらの結果からいえることは「専門的知識を得るため」「学問研究のため」「教養、人格の陶冶のため」をあわせると70%以上となり、専門志向、教養志向であるといえる。大学生活をエンジョイするために、就職の条件をよくするために、学歴をうるためにといった実利的な目的で入学している学生が少なかった。

3. 本学学生であることに誇りを持っているか

相愛大学学生であることに誇りを持って大学生活をしているか否かについて調査をした。

fig. 3に示したように、5項目より選択された結果、「大学に誇りを持っている」が53.4%、「大学に誇りを持っていない」学生は33.1%、「どちらともいえない」とあいまいな回答をしたものが13.5%であった。これらの結果から半数以上のものが自分の大学に誇りを持っていることになる。

学部別に見ると、人文学部学生は40.9%、音楽学部学生は60.1%と音楽専攻学生の方が大学に誇りを持ち大学生活を送っているものが多かった。反対に、誇りを持っていない学生は、音楽学部学生28.0%、人文学部学生41.3%であった。

相愛大学学生生活実態調査報告

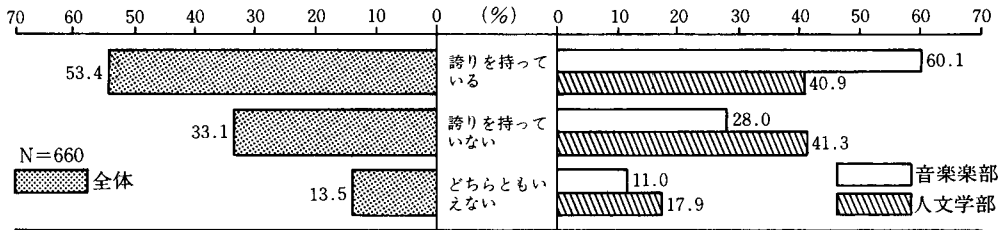


fig. 3 本学学生であることの誇りの頻度

4. 現在の学生生活の充実度について

現在の学生生活についての充実度について調査した。fig. 4 に示したように、3 項中 1 つ 選択させた結果、1 位は「普通である」60.7%，2 位「充実している」26.4%であった。両者を合計すると 87%以上のものが、現在の学生生活に対して充実あるいはそれに近い満足度を持っていると思われる。「充実していない」が 12.3%となり、今後の検討課題ともいえる。

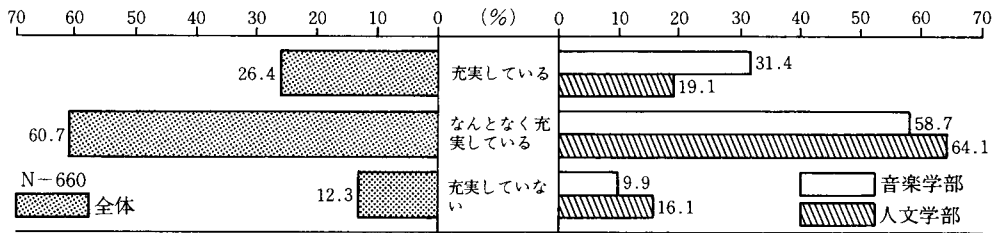


fig. 4 学生生活の充実の頻度

学部別に見た場合、音楽学部学生の「充実している」割合は 31.4%に対し、人文学部学生のそれは 19.1%と差がみられた。逆に「充実していない」割合は音楽学部 9.9%に対し、人文学部 16.1%と高い傾向にあった。いずれにしても、「充実している」「なんとなく充実している」をあわせると、90.1%，83.2%となり、本学学生の充実度は高いといえよう。

5. 現在在籍している学部学科に満足しているか。

現在在籍している学部、学科に対して満足しているかについて、4 項目中 1 つを選択させた結果が fig. 5 である。

「満足している」が 48.1%，「満足ではないがやもえない」が 38.0%，「わからない」が 9.0%「失望している」が 6.3%であった。「満足している」と「やもえない」を合計すると 86.1%となり、本学学生は自分の在籍する学部、学科に一応満足しているといえよう。また、自分の学部、学科に「失望している」が 6.3%と少数ではあるが気になるところである。

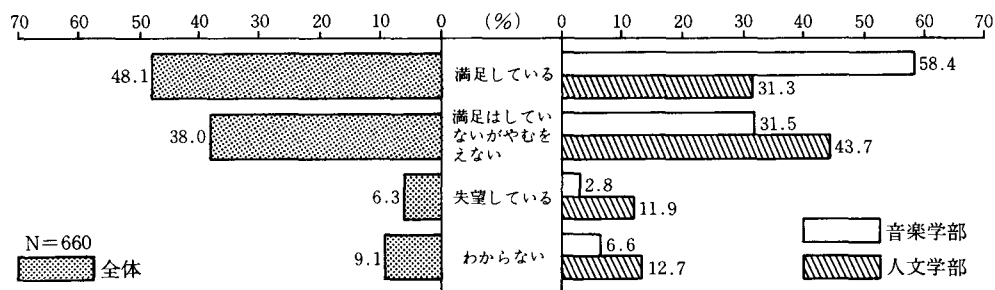


fig. 5 現在在籍している学部, 学科の満足の頻度

学部別に集計すると、「満足している」については音楽学部 58.4%、人文学部 31.3%と差がみられた。また「やもえない」は 12.2 ポイント人文学部学生の割合が高く、「失望している」では、同様に 9.1 ポイント人文学部学生の割合が高かった。いずれにしても、「やや満足」群以上をみると、音楽学部 89.9%、人文学部 75.0%となり、両者とも「満足」している学生がかなり認められた。

6. あなたは自分をどのようなタイプの大学生と思うか。

わが国の大学生の文化には、遊びの要素が強くならざるを得ない条件が多くあるといわれる。しかし、今日の大学生のすべてが遊び人であり、その文化は遊び文化一色にぬりつぶされているわけではなく、真面目に勉強をしている学生も多く存在しているのはいうまでもない。そこで本学学生を6つのタイプに分類し調査することにした。①「勉強中心型」学問への探究心が強く、熱心な研究態度をもって真理探究に励むタイプ。②「レジャー中心型」自分の所属する大学に対しては愛情や忠誠心はもっているが、大学生が持たねばならない学問や真理探究には関心をもつことなく遊びまわるタイプ。③「アルバイト中心型」大学生としての学問や研究には目をむけず、アルバイトを中心に生活設計を立て大学にはあまり気を向けないタイプ。④「クラブ活動中心型」大学生としての学問研究はあまりせず、クラブ活動をするために大学に来ているタイプ。⑤「ノンポリ型」(nonpolitical) 大学には登校して来るが、これといった勉強もせず、クラブ活動もせず何となく生活しているタイプ。⑥「その他型」5つのタイプのどれにも該当しないタイプ。以上6つの型を学生たちに示すとともに説明をし、そのうち1つを選択させた。

結果は、fig. 6 に示したように、自分は「ノンポリ型」であると回答したものが全体の 31.0%と最も多く、「勉強中心型」が 20.9%、5つのタイプのどれにも該当しない「その他型」が 17.3%、「レジャー中心型」が 15.0%、「アルバイト中心型」が 8.4%、「クラブ中心型」が 7.0%の順であった。

これを学部別に見ると、音楽学部では、「勉強中心型」29.9%であり、人文学部では 6.3%と低い結果となった。音楽学部学生は勉強中心型が多く、学問への探究心や強い研究態

相愛大学学生生活実態調査報告

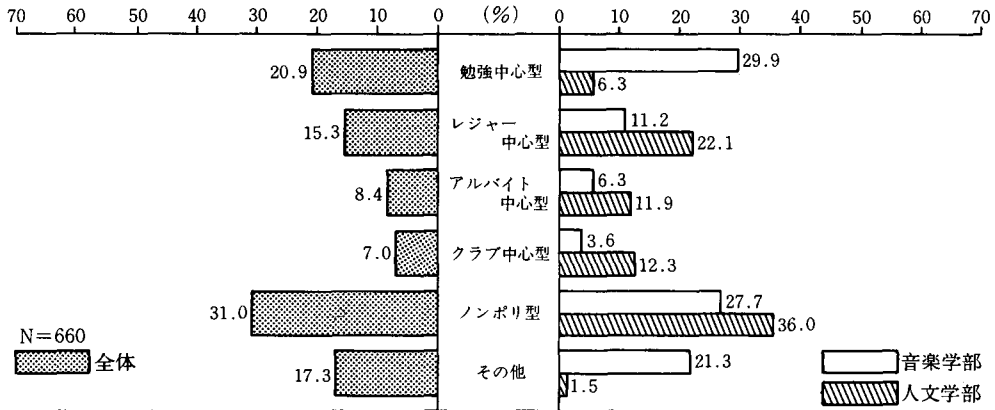


fig. 6 自分自身どのようなタイプの学生か

度を持つ学生が多いが、それは自分達の専攻楽器のレッスンに励んでいることを指してこの項目とを結びつけ選択したものと推察される。また「ノンポリ型」は人文学部学生が36.0%、音楽学部学生は27.7%と、いずれも高い数値を示した。これも現代社会の悩みの一つとなっている大学生の行動欲が減退していることの特徴であろうが、一般的には三無主義（無気力、無責任、無関心）にあたり、大学生を襲っているスチューデント・アパシー（Student apathy）のあらわれが本学にもあるといってもよかろう。また、「アルバイト中心型」は、人文学部が11.9%で、音楽学部は6.3%であった。本結果を他大学学生調査とを比較すると、本学ではこれらのタイプの学生は圧倒的に少ないといえる。

1987年の調査で明らかになされたことに、アルバイトの経験者が77.8%存在していたが、授業の妨げにならない程度にアルバイトをしていると回答した学生が53.1%をしめ^④た。この数字から、アルバイト中心型は、本学では少ないことがうかがえる。「その他の型」については、音楽学部では21.3%、人文学部では1.5%となり、音楽学部の方が高かった。

Table 2 学生のタイプ別にみた学生生活充実度

| | 充実している | | ふ つ う | | 充実していない | | 計 | |
|--------|--------|------|-------|------|---------|------|-----|------|
| 勉強型 | 54 | 39.4 | 73 | 53.3 | 10 | 7.3 | 137 | 21.1 |
| レジャー型 | 28 | 28.3 | 60 | 60.6 | 11 | 11.1 | 99 | 15.3 |
| アルバイト型 | 17 | 32.1 | 26 | 49.1 | 10 | 18.9 | 53 | 8.2 |
| クラブ生活型 | 12 | 26.7 | 30 | 66.7 | 3 | 6.7 | 45 | 6.9 |
| ノンポリ型 | 30 | 14.9 | 138 | 68.7 | 33 | 16.4 | 201 | 31.0 |
| その他 | 32 | 28.3 | 68 | 60.2 | 13 | 11.5 | 113 | 17.4 |
| 計 | 173 | 26.7 | 395 | 61.0 | 80 | 12.3 | 648 | 100 |

$\chi^2 = 32.991$ dF = 10 P < 0.001***

そこで、タイプ別に見る場合、どのようなタイプの学生が学生生活に満足し、充実した

生活を送っているのか、また、どのようなタイプの学生が充実していないのかをみるために、「学生のタイプ別分類」と「学生生活の充実度」について Table 2 でクロスさせた。その結果有意な関連が認められた ($\chi^2=32.991$ $df=10$ $P<0.001^{***}$)。

すなわち、勉強型タイプの充実度がもっとも高く(39.4%)、充実していない学生は、アルバイト型 18.9%、ノンポリ型 16.4%に多く存在していた。

勉強している学生は充実した学生生活を送っており、アルバイト型学生、ノンポリ型学生は学生生活に関して充実しない生活を送っていることになろう。

7. あなたが入学前に描いていた大学のイメージと入学後の実態とは合致しているか。

大学進学にあたり、さまざまな夢や希望を持ち、将来像を描いて入学して来た彼らが大学生活を行っている現在、彼らの入学前と現在のイメージとの差異について調査を行った。3項目より1つを選択させた結果を fig. 7 に示した。入学前のイメージと「ずれている」とこたえたものが62.2%、「合致している」としたものが26.3%、「わからない」が11.5%であった。学生が入学以前に描いていた大学のイメージと実態とのギャップを感じている学生が60%以上存在していることが明らかにされた。

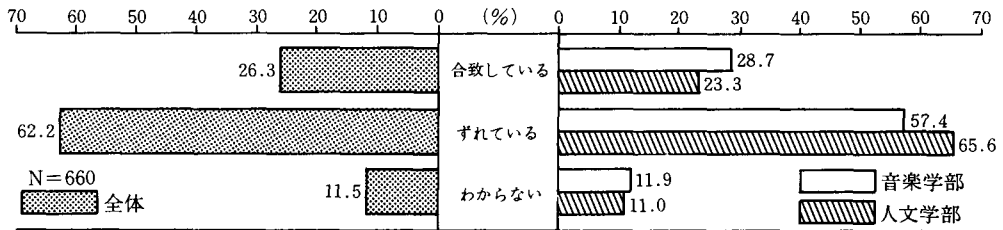


fig. 7 入学前に描いていた本学のイメージと実態は合致しているか

そこで、他大学に目を向けると、K大学の調査では入学前のイメージに対して「ずれている」が54.4%、「合致している」が36.5%と報告されている^⑦。この大学は、文系、理系がある総合大学で、本学と比較は困難とも思われるが、本学もK大学と同様「ずれている」が半数以上存在していることになった。

また、学部別にみると、音楽学部では「ずれている」が59.4%、人文学部では65.6%となった。反対に「合致している」をみると、音楽学部28.7%、人文学部23.3%となり、ほぼ同様の数値を認めた。

いずれにしても、「ずれている」内容は明らかにされておらず、次回の課題となった。考えてみると「ずれている」ことが当然であるかも知れず、今後の検討課題としたい。

8. 本学に対するイメージについて

本学に対する全般的なイメージについて次の8項目について設問をした。

相愛大学学生生活実態調査報告

本学のイメージとして「開放的な感じがあるか」「整然とした感じがあるか」「明るいイメージがあるか」「自由なイメージがあるか」「活動的なイメージが感じられるか」「温かいイメージが感じられるか」「改革的な気風が感じられるか」「広いイメージを感じるか」。これらはただ単に「大学のイメージ」を学生たちの感じたままに書く調査で漠然としたところがあるので、回答に当っては学生たちにそれぞれの項目の説明を加え回答をもとめた。

(1) 本学のイメージとして開放的な感じがあるか。

Table 3-1 にその結果を示した。「開放的」と回答したものは全体の 23.5%であり、「普通」としたものが 43.8%、「開放的でない」が 30.8%となった。開放的、普通をあわせると 67.3%となり、学生たちは、本学を開放的であると感じているのが多くいるようである。

(2) 本学のイメージに整然とした感じがあるか。

Table 3-2 に結果を示した。「整然とした」イメージを持つものが全体の 17.1%と少なく、「普通」66.6%、「整然としていない」16.2%となった。肯定群と否定群がほぼ同率となった。いずれにしても「整然としている」と「普通」をあわせた場合、83.7%のものが一応肯定しており、本学に対して、整然としたイメージを持っている学生が多くいることが明らかにされた。

(3) 本学に明るいイメージがあるか。

Table 3-3 にその結果を示した。本学に「明るい」イメージを持つものは 23.7%となり、「明るくない」としたものが、ほぼ同数の 24.0%となった。「明るい」「普通」をあわせると 75.9%の学生が一応肯定群となり、明るいイメージを持っているものが多く存在することが理解できた。しかし 24%もの学生が「明るい」というイメージを持っていることが注目されよう。

(4) 本学に自由なイメージがあるか。

Table 3-4 に結果を示した。「自由だ」と「普通」であるをあわせると 73.9%となり、「自由でない」は 26.1%となった。学生たちは、自由なイメージを持って大学生活をしているものが多いといえよう。

しかし、「自由」のイメージを肯定する群と否定する群とが同割合存在し、今後の追求課題として、その内容が明らかにされる必要があるだろう。

(5) 本学に活動的なイメージが感じるか。

Table 3-5 に示したごとく、「活動的」「普通」をまとめると 46.7% となり、「活動的でない」のは 53.2% も存在した。

学生が活動的でないと感じているものが半数以上いることに本学運営上の課題が残されるように思われる。

(6) 本学に温かいイメージがあるか。

Table 3-6 に示したように、「温かい」「普通」をあわせると 77.9% となり、「温かくない」は 22.0% となった。

温かく感じているものが多いようであるが、前述同様「温かくない」22% 群の内容を明らかにする必要があると思われる。

(7) 本学に改革的な気風が感じられるか。

Table 3-7 に示したように、「改革的」および「普通」をあわせると 51.4% となり、「改革的でない」は 38.6% となった。

学生のとらえ方が 2 分されていることが明らかになった。そこで学生のとらえるイメージの内容を明らかにする必要があるだろう。

(8) 本学に広いイメージを感じるか。

Table 3-8 に示した、「広い」と「普通」をまとめると 54.1% となり、「広くない」は 45.9% となった。

これらの集計結果から、本大学のイメージとして、開放的で、整然とした感じが強く、また明るい雰囲気であり、自由で、温かい感じのもとで学生生活をしていることがうかがえよう。しかし半数以上の学生が、活動的でないと答え、半数近くの改革的でないとしていることに注目しなければならないようである。

これらの設問は、漠然としているところもあるので、学部別（音楽学部、人文学部）に平均値をみることにした。Table 4 に示したごとく 3 段階評定をした。「明るさ」については、音楽学部 2.061 点、人文学部 1.897 点となり、5% 水準の有意性が認められた。よって音楽学部学生の方が、人文学部学生にくらべて、「明るい」というイメージを強く持っていることが証明される。

また活動的なイメージについては、音楽学部 1.6101 点、人文学部 1.4822 点となり、5% 水準の有意性が認められ、音楽学部学生の方が人文学部学生より、活動的イメージを持って学生生活をしていることが明らかにされた。

また、「改革的な気風」については、音楽学部 1.5544 点、人文学部 1.6996 点となり、5

相愛大学学生生活実態調査報告

Table 3-1 本学のイメージとして開放的な感じがあるか

| 開放的 | 普通 | 開放的ではない | 無回答 |
|---------------|---------------|---------------|-----|
| 155 (23.5) | 289 (43.8) | 203 (30.8) | 13 |

N = 660 () PERCENT

Table 3-2 本学のイメージに整然とした感じがあるか

| 整然としている | 普通 | 整然としていない | 無回答 |
|---------------|---------------|---------------|-----|
| 112 (17.1) | 435 (66.6) | 106 (16.2) | 7 |

N = 660 () PERCENT

Table 3-3 本学に明るいイメージがあるか

| 明るい | 普通 | 明るくない | 無回答 |
|---------------|---------------|---------------|-----|
| 155 (23.7) | 341 (52.2) | 157 (24.0) | 7 |

N = 660 () PERCENT

Table 3-4 本学に自由なイメージはあるか

| 自由だ | 普通 | 自由でない | 無回答 |
|---------------|---------------|---------------|-----|
| 175 (26.8) | 308 (47.1) | 171 (26.1) | 6 |

N = 660 () PERCENT

Table 3-5 本学に活動的なイメージを感じるか

| 活動的である | 普通 | 活動的でない | 無回答 |
|-------------|---------------|---------------|-----|
| 60 (9.1) | 246 (37.6) | 348 (53.2) | 6 |

N = 660 () PERCENT

Table 3-6 本学に温かいイメージを感じるか

| 温かい | 普通 | 温かくない | 無回答 |
|---------------|---------------|---------------|-----|
| 118 (18.0) | 392 (59.9) | 144 (22.0) | 6 |

N = 660 () PERCENT

Table 3-7 本学に改革的な気風が感じられるか

| 改革的である | 普通 | 改革的でない | 無回答 |
|-------------|---------------|---------------|-----|
| 62 (9.5) | 274 (41.9) | 318 (48.6) | 6 |

N = 660 () PERCENT

Table 3-8 本学に広いイメージを感じるか

| 広い | 普通 | 広くない | 無回答 |
|---------------|---------------|---------------|-----|
| 101 (15.4) | 253 (38.7) | 300 (45.9) | 6 |

N = 660 () PERCENT

%水準の有意性が認められ、人文学部学生の方が、音楽学部学生より、改革的イメージを持っていることがわかった。

Table 4 本学に対するイメージについて

| | Department | N | M | S.D | t 検 定 | |
|-----------|------------|-----|--------|-------|-------|-----------|
| 開 放 的 な | 音楽学部 | 395 | 1.9392 | 0.797 | 0.422 | N.S |
| | 人文学部 | 252 | 1.9921 | 0.828 | | |
| 整 然 と し た | 音楽学部 | 395 | 2.0076 | 0.577 | 0.729 | N.S |
| | 人文学部 | 252 | 2.0198 | 0.575 | | |
| 明 る さ | 音楽学部 | 395 | 2.0609 | 0.682 | 0.003 | P < .005* |
| | 人文学部 | 252 | 1.8972 | 0.700 | | |
| 自 由 さ | 音楽学部 | 395 | 2.0203 | 0.719 | 0.585 | N.S |
| | 人文学部 | 252 | 1.9881 | 0.737 | | |
| 活 動 的 な | 音楽学部 | 395 | 1.6101 | 0.680 | 0.013 | P < .005* |
| | 人文学部 | 252 | 1.4822 | 0.615 | | |
| 温 か い | 音楽学部 | 395 | 2.0000 | 0.625 | 0.053 | N.S |
| | 人文学部 | 252 | 1.9012 | 0.638 | | |
| 改 革 的 な | 音楽学部 | 395 | 1.5544 | 0.624 | 0.007 | P < .005* |
| | 人文学部 | 252 | 1.6996 | 0.693 | | |
| 広 い | 音楽学部 | 395 | 1.6658 | 0.709 | 0.168 | N.S |
| | 人文学部 | 252 | 1.7470 | 0.745 | | |

*…… P < .05 **…… P < .01 ***…… P < .001
N.S …… non significance

また、その他の「開放的」「整然とした」「自由な」「温い」「広い」等のイメージについては、有意差を認めることが出来なかった。

以上、①受験の動機、②入学の目的、③本学学生であることに誇りを持っているか、④現在の学生生活の充実度、⑤現在在籍している学部、学科の満足度、⑥学生のタイプ別分類、⑦入学前に描いていた大学のイメージと入学後の実態について、⑧本学に対するイメージについて、の8の項目について考察し、さらに、学生の心理的側面を明確化するため、これらを項目毎にクロス集計し考察を加える。

学生の「入学目的」と「本学学生であることのプライド」との関係をみるために、Table 5-1 でクロスさせたところ、有意な関連が認められた ($\chi^2=28.018 \cdot P<0.05^*$)。

「専門的知識を得るため」および「学問研究のため」に本学に入学した学生が、本学生としてのプライドも高い傾向にあった。また、相愛大生としてプライドを持たない学生には、大学進学時に入学目的がはっきりしないままに入学したもの、大学入学目的が資格取得のためといっている学生に多い傾向がみられた。(なおクラブ入部者の数値は高いがN数が少ないので取りあげなかった。)

相愛大学学生生活実態調査報告

Table 5-1 大学入学目的と本学学生であることのプライドとの関係

| | 本学の学生としてプライドを持っている | | どちらでもない | | 本学の学生としてプライドを持ってない | | 計 | |
|--------------|--------------------|------|---------|------|--------------------|------|-----|------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 学問研究のため | 58 | 55.8 | 10 | 9.6 | 36 | 34.6 | 104 | 16.4 |
| 専門的知識を得るため | 177 | 58.0 | 41 | 13.4 | 87 | 28.5 | 305 | 48.2 |
| 豊かな教養と人格の陶冶 | 26 | 54.2 | 8 | 16.7 | 14 | 29.2 | 48 | 7.6 |
| 資格取得のため | 26 | 52.0 | 2 | 4.0 | 22 | 44.0 | 50 | 7.9 |
| 将来の就職を考えて | 18 | 45.0 | 9 | 22.5 | 13 | 32.5 | 40 | 6.3 |
| 青春をエンジョイするため | 19 | 51.4 | 8 | 21.6 | 10 | 27.0 | 37 | 5.8 |
| クラブ活動をするため | 3 | 75.0 | 0 | 0.0 | 1 | 25.0 | 4 | 0.6 |
| 親友を得るため | 4 | 57.1 | 1 | 14.3 | 2 | 28.6 | 7 | 1.1 |
| 学歴をつけるため | 8 | 33.3 | 2 | 8.3 | 14 | 58.3 | 24 | 3.8 |
| 特に目的なし | 1 | 7.1 | 5 | 35.7 | 8 | 57.1 | 14 | 2.2 |
| 計 | 340 | 53.7 | 96 | 13.6 | 207 | 32.7 | 633 | 100 |

$$\chi^2 = 28.018 \quad df = 18 \quad P < 0.05^*$$

次に、「大学入学目的」と「学部、学科の満足度」との関係を見るために、Table 5-2のごとくクロスさせた。検定結果は($\chi^2=231.88 \quad df=18 \quad N.S.$)、有意性が認められなかったものの、今後の研究についての重要な資料を得ることが出来たと思われる。

Table 5-2 大学入学目的と学部・学科の満足度との関係

| | 満足している | | わからない | | 失望している | | 計 | |
|--------------|--------|-------|-------|------|--------|------|-----|------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 学問研究のため | 93 | 90.3 | 3 | 2.9 | 7 | 6.8 | 103 | 16.3 |
| 専門的知識を得るため | 272 | 89.5 | 24 | 7.9 | 8 | 2.6 | 304 | 48.2 |
| 豊かな教養と人格の陶冶 | 38 | 77.6 | 5 | 10.2 | 6 | 12.2 | 49 | 7.8 |
| 資格取得のため | 39 | 78.0 | 8 | 16.0 | 3 | 6.0 | 50 | 7.9 |
| 将来の就職を考えて | 32 | 82.1 | 5 | 12.8 | 2 | 5.1 | 39 | 6.2 |
| 青春をエンジョイするため | 26 | 70.3 | 6 | 16.2 | 5 | 13.5 | 37 | 5.9 |
| クラブ活動をするため | 4 | 100.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 4 | 0.6 |
| 親友を得るため | 7 | 100.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 7 | 1.1 |
| 学歴をつけるため | 17 | 70.0 | 4 | 16.7 | 3 | 12.5 | 24 | 3.8 |
| 特に目的なし | 10 | 71.4 | 2 | 14.3 | 2 | 14.3 | 14 | 2.2 |
| 計 | 583 | 85.3 | 57 | 9.0 | 36 | 5.7 | 631 | 100 |

$$\chi^2 = 23.188 \quad df = 18 \quad N.S$$

これらのデータから、学部、学科に満足している学生には、「学問研究のため」「専門的知識を得るために入学した者が多いことが明確にされた。なお、「クラブ活動をするため」および「親友を得るため」の数値は高いが、サンプル数が少ないのでとりあげなかった。また学部、学科に失望している学生は、「青春をエンジョイするために」「特に目的を持たない」で大学に入学したという学生に失望の頻度も高い傾向にあることが、検定の結果明

らかにされた。

また、「大学の入学目的」と「学生生活の充実度」との関連についてクロス集計したところ、Table 5-3 が示すように、検定結果は ($\chi^2=36.317$ $df=18$ $P<0.01^{**}$) 有意性が認められ、「学問研究のため」「専門的知識を得るため」に大学に入学した学生は、充実度も高い傾向にあった。なお、クラブ活動について数値は高いが、サンプル数が少ないのでとりあげなかった。また、「充実していない」と回答した学生の中に、「学歴をつけるため」「親友を得るため」に大学に入学したと回答している学生が多いことが認められた。

Table 5-3 大学入学目的と現在の学生生活の充実度との関係

| | 充実している | | ふつう | | 充実していない | | 計 | |
|--------------|--------|------|-----|------|---------|------|-----|------|
| 学問研究のため | 32 | 30.8 | 60 | 57.7 | 12 | 11.5 | 104 | 16.5 |
| 専門的知識を得るため | 94 | 30.9 | 178 | 58.6 | 32 | 10.5 | 304 | 48.3 |
| 豊かな教養と人格の陶冶 | 7 | 15.2 | 29 | 63.0 | 10 | 21.7 | 46 | 7.3 |
| 資格取得のため | 7 | 14.0 | 39 | 78.0 | 4 | 8.0 | 50 | 7.9 |
| 将来の就職を考えて | 6 | 15.0 | 29 | 72.5 | 5 | 12.5 | 40 | 6.3 |
| 青春をエンジョイするため | 7 | 18.9 | 28 | 75.7 | 2 | 5.4 | 37 | 5.9 |
| クラブ活動をするため | 3 | 75.0 | 1 | 25.0 | 0 | 0.0 | 4 | 0.6 |
| 親友を得るため | 0 | 0.0 | 5 | 71.4 | 2 | 28.6 | 7 | 1.1 |
| 学歴をつけるため | 1 | 4.2 | 14 | 58.3 | 9 | 37.5 | 24 | 3.8 |
| 特に目的なし | 3 | 21.4 | 8 | 57.1 | 3 | 21.4 | 14 | 2.2 |
| 計 | 160 | 25.4 | 391 | 62.1 | 79 | 12.5 | 630 | 100 |

$$\chi^2 = 36.317 \quad df = 18 \quad P < 0.01^{**}$$

よって、Table 3-1, 3-2, 3-3 を総括すると、「学問研究のため」あるいは「専門的知識を得るため」に本学に入学したと回答した学生は、本学に誇りを持ち、学生生活の充実度も高く、また、自分の所属する学部、学科に対する満足度も、高い傾向にあった。

IV 総括および結論——「要 約」

1. 学生のタイプと学生生活の充実度についての関係をみると、勉強中心型タイプの学生の学生生活充実度は高く、ノンポリ型学生の充実度は低かった。

2. 大学入学前のイメージと入学後のイメージが「合致している」学生と「ずれている」学生の数は二分されていることが明らかとなった。

3. 学生達は本学のイメージを開放的で整然としたものにとらえており、明るく、自由で温かいと感じる者が多い中で、反面、活動的でなく、改革的でない指摘する学生が多数存在することが明らかになった。

4. 入学目的を「学問研究追求」及び「専門的知識獲得」とした専門志向学生は、本学

に誇りを持ち、所属学部、学科に満足し、学生生活充実度も高い傾向がみられた。

以上の総括から、入学時の目的を学問研究追求や専門的知識獲得とした学生は、実利的な目的や無目的で入学した学生に比べ、多くの点で学生生活を有意義に送っており、さらに本学に誇りを持っていることが認められた。よって、彼らの入学目的の決定は、後の大学生生活を大きく左右する要因となるものと思われる。

なお、入学前の本学に対するイメージと入学後の実態が合致している学生と、ギャップを感じるとした学生の数は二分されたが、その内容は明らかにされておらず、今後の検討課題となった。

参 考 文 献

- ① 長野孝男(1980)「女子学生の生活意識について」『相愛女子大学・相愛女子短期大学研究編集』音楽学部編。
- ② 長野孝男・滝省治(1983)「女子学生の生活意識について(その2)」『相愛大学・相愛女子短期大学研究編集』第30巻、音楽学部編。
- ③ 長野孝男・滝省治(1984)「音楽学部学生の学園生活の意識と余暇活動について」『相愛大学・相愛女子短期大学研究論集』第31巻、音楽学部編。
- ④ 長野孝男(1988)「相愛大学学生生活実態調査報告(その4)」健康に関わる諸問題について『相愛大学研究論集』第4巻。
- ⑤ 笠原嘉・山田和夫編『キャンパスの症状群、現代学生の不安と葛藤』弘文堂。
- ⑥ 関山句一・返右健編『大学生の心理』有斐閣。
- ⑦ 神戸学院大学編『学生生活状況調査』(1980)。
- ⑧ 小林司編『心の健康学入門(ストレスからの脱出)』国土社。
- ⑨ 神保信一編『キャンパス、トビックス、こころ探し——入学から卒業まで』誠信書房。
- ⑩ 隅谷三喜男著『大学ではなにを学ぶか』岩波ジュニア新書38。
- ⑪ 三宅一郎・山本嘉一郎編『SPSS (statistical package for the social sciences) ——統計パッケージ(基礎編)』
- ⑫ 新堀通也『現代のエスプリ(大学生)』
- ⑬ 上智大学保健委員会編『キャンパスのメンタル・ヘルス』上智大学。